

第3回札幌市ウォークアブルビジョン 策定検討委員会

議 事 録

日 時 令和7年3月19日(水)15 時00分開催
場 所 オンライン(事務局:札幌市役所 5F 南東会議室)

1. 開会

○児玉政策推進課長

それでは定刻になりましたのでこれより第3回札幌市ウォーカブルビジョン策定検討委員会を開始いたします。私は札幌市まちづくり政策局政策推進課長の児玉と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本委員会は前回と同様オンライン開催といたします。委員の皆様におかれましてはご多忙の中、ご参加いただきまして誠にありがとうございます。

なお事務局につきましては、前回と同様にまちづくり政策局政策企画部プロジェクト担当部長の山内、都心まちづくり推進室長の稲垣、都市計画部長の長谷川、総合交通計画部長の小林の計4名の部長職が参加しています。どうぞよろしくお願いいたします。本委員会は一般の皆様にも公開しておりまして、会議終了後には議事録も公開予定です。あらかじめご了承ください。オンラインで視聴されている皆様におかれましては本委員会中のご質問やご意見を受け付けることは難しいため、終了後に事務局であります札幌市政策推進課までご連絡をいただければと思います。

それでは事務局を代表しまして、札幌市まちづくり政策局政策企画部プロジェクト担当部長の山内よりご挨拶申し上げます。

2. 開会挨拶

○山内プロジェクト担当部長

札幌市まちづくり政策局プロジェクト担当部長の山内です。本日はお忙しいところ第3回札幌市ウォーカブルビジョン策定検討委員会にご出席いただきまして誠にありがとうございます。

札幌市では、居心地が良く歩きたくなるまち、ウォーカブルシティを推進するため、官民一体となって取り組む際の指針となる「（仮称）札幌市ウォーカブルビジョン」を令和7年度に策定する予定です。昨年12月に開催した第2回検討委員会では、昨年8月から9月にかけて実施した3つの公募型実証実験で得られた成果及びウォーカブルビジョンの中間骨子案についてご説明させていただき、委員の皆様からさまざまなご意見をいただきました。

第3回となる本日は、4章構成としているウォーカブルビジョンの骨子案についてご確認、ご議論いただくことを予定しています。

今回のビジョン骨子案のポイントといたしましては、目指すまちの姿をイラストやキャッチコピーで表現することで、ビジョンを見た方が、より具体的に自分の生活や行動をイメージできるようにしたところです。

また札幌市ならではの課題である冬のウォーカブルについても、今年の2月から3月に実証実験を行いましたので、そちらの結果についても併せてご紹介させていただきます。限られた時間の中ではございますが、ぜひ専門的な見地からの忌憚のないご意見を頂戴できれば幸いです。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

3. 議事

○児玉政策推進課長

それでは本日の議事につきまして、有村委員長どうぞよろしくお願いいたします

○有村委員長

はい、皆さんこんにちは、室蘭工業大学有村です。本日は、ご挨拶の中でもありました通り、「（仮称）札幌市ウォーカブルビジョン」の骨子案につきまして皆様から忌憚のないご意見等をいただきたいということが趣旨となります。

それでは早速議題に入らせていただきます。まず事務局から資料の説明をお願いいたします。

○事務局

札幌市まちづくり政策局政策推進課の阿部と申します。

私の方からは、「（仮称）札幌市ウォーカブルビジョン」の骨子案について、今年の冬に実施いたしました実証実験結果を交えながらご説明をさせていただきます。

まず骨子案の内容に入る前に本検討委員会のスケジュールです。

今年度は秋と夏2回の市民ワークショップ、シンポジウムのほか、計10回を超える各地での実証実験を経て、本日の第3回検討委員会にて、ビジョン骨子案のご説明をいたします。ビジョンの策定公表は令和7年度末を予定していますので、来年度6月ごろに第4回目として素案をお示しし、その後、庁内の最終合意形成や議会報告、パブリックコメントへと進んでまいります。

また本ビジョンの目指す年度ですが、現在策定作業中の次期都市計画マスタープランや次期都心まちづくり計画における計画期間と整合性を図り、おおむね20年先を見据えて策定作業を行っているところです。

次にこれまでご議論いただいたビジョンの構成やターゲット設定です。第1章では札幌市におけるウォーカブルの推進の目的を整理し、第2章で目指すまちの姿についてパースなどを用いて整理、可視化。そして第3章では、目指す姿の実現に向けた有効な手法例や、それらを組み合わせたモデルケースの紹介をし、第4章でその推進体制や支援策の方向性をお示しいたします。

ターゲット設定といたしまして、このビジョンを誰にどのように活用してほしいかというところも明確化することで、より次のアクションに繋がるビジョンを目指してまいりたいと考えています。

それではここから骨子案のご説明をいたします。

まずは第1章、ウォーカブルの推進の目的です。本章のポイントは札幌市における課

題やこれまで得られた市民意見を整理すること。そして札幌市ウォーカブルにおける多岐にわたる分野を包括し、5つの目的を重点指針として整理することです。

まず上位計画との関係性ですが、これまでの委員会でもご説明させていただいておりました通り、札幌市の最上位計画である第2次札幌市まちづくり戦略ビジョンにおける重要政策としてウォーカブル政策の推進を掲げています。

画面右下の吹き出しにもございますが、居心地が良く歩きたくなり、多様な活動ができる、滞留したくなる空間の形成に向けて都心・地域交流拠点・住宅市街地、それぞれの特性を生かした空間の整備を進めると上位計画に明記されています。

次に札幌市の抱える課題についてです。国内、あるいは世界の都市を見ましても、ウォーカブルシティ推進の背景として、各都市が捉えている課題はそれぞれ異なります。その中でも札幌市では特にこの3点。市民の健康増進、安全安心な歩行環境、交流賑わいの創出の観点から推進する必要性が高いと考えているところです。

次に札幌市を取り巻く考慮すべき社会情勢の変化と、これまで得られた主な市民意見のまとめです。札幌市は令和3年より人口減少に転じておりまして、本市の人口減少対策プランであります第3期さっぽろ未来創生プランにおいても、人口減少への適応というところを今年度初めて掲げています。

また札幌市では2050年までに温室効果ガスを実質ゼロにするゼロカーボンシティを目指しており、今年度6月にはGX産業の振興に資する金融特区として認定を受けています。また画面右側にごございます市民意見については本年度様々な機会を捉えて市民対話や意見収集を行っておりまして、主なものを記載しています。

特に今冬の実証実験を通して新しくいただいたご意見を水色で囲んでおりまして、「冬の良さを安心して味わうために、屋内施設との連携を充実させてほしい。」や「自然のありのままの雪に触れられる場所」の重要性などについてご意見をいただいているところです。

第1章の最後にウォーカブル推進の目的といたしまして、5つの重点方針を整理しています。札幌市におけるウォーカブル政策の特徴といたしまして、ウォーカブルを将来の都市ビジョンとして幅広く捉えておりまして、「持続可能なまちで緑とともに暮らせること」、「歩くことが楽しく健康に暮らせること」、「誰もが安心して円滑に移動できること」、「居心地が良く、自分らしくいられる居場所があること」、そして、最後に「札幌らしく、四季を通じて歩きたくなること」の5つを目的としています。

次に本ビジョンで最も重要な第2章、目指すまちの姿をご説明いたします。本章のポイントとしましては、先ほどご説明した5つの目的を踏まえまして、目指す都市像を明確化しています。また札幌市が抱える幅広いエリアに対応するため都心・地域交流拠点・住宅市街地など全12ケースを検討しています。

ここで改めてのご紹介ですが、札幌市では庁内横断的にウォーカブル施策を強力に推

進するため、副市長を本部長とした推進本部体制を構築しています。さらに都心・地域交流拠点・住宅市街地ごとに実務者レベルのプロジェクトチームを設置し、都市計画、交通計画、公園、道路、観光、景観など様々な部署が一丸となって議論を実施し、これからご説明する目指す姿の検討をいたしています。

こちらが前回の委員会で皆様に作成すべきとご意見をいただいております札幌市が目指すウォーカブルなまちのコンセプトです。「Well-Moving City SAPPORO」、春夏秋冬、地上も地下も老若男女関係なく、ここに住む市民はもちろん、一時的な来訪者でもいつでもどこでも誰もが心地よく、移動を愉しめる街札幌です。

国内あるいは世界の都市を見ましても、ウォーカブル政策の目指すところはウェルビーイングの向上とよく言われますが、プロのコピーライターの方と共同で検討し、ウェルビーイングを想起させるリズムと音を採用しています。

また札幌市のウォーカブル政策を推進する背景となる健康、安全・安心、交流賑わいの3本柱も網羅しています。あくまでもまだ案の段階ではありますので、本日の議論を踏まえまして検討を深めていければと考えているところです。

こちらが「Well-Moving City SAPPORO」のイメージパースです。札幌市民の愛着度の高さにも大きく寄与している明瞭な四季や、都市と自然の調和を重視し、季節が巡っても、いつでも心地よく楽しめる街を表現しています。

例えば左上の春では、札幌ならではの梅と桜が同時に咲く並木道をバリアフリー化された安全な歩道を歩いている老夫婦が描かれていたり、右上の夏では、居心地の良い緑陰のもとで、オープンテラスを楽しんでいる人々が描かれています。

右下の秋では、水辺空間や紅葉を眺めながら、1人の時間をゆったりと過ごせる休憩施設の確保ですとか、左下の冬では雪そのものを楽しむ観光客。そして、雪と明かりが織りなす札幌ならではの冬の景観を、来街者が楽しみながら歩いている様子を描いています。

また全体がやや淡い色彩となっていますが、これは札幌市の景観色として、実際に指定されている色を、建物の壁面ですとか、日よけ、ベンチなどのストリートファニチャーなどに使用しているということも特徴としてございます。

次に都心エリアの目指すまちの姿です。前回の委員会でもお示ししましたが、札幌の都市空間における都心エリアの特徴といたしましては、北海道・札幌市の魅力と活力を牽引し、国際競争力を備えた高次の都市機能が集積するエリアとなっております。

こちらが都心エリアの目指すまちの姿。「巡るたび、また巡りたくなる好奇心の積もる街並み」です。市民にとってわかりやすく共感が生まれる表現を意識し、コピーライターとともに制作を進めてまいりました。

パースは初夏の休日、昼間を表現していますが、いつ訪ねても、何度訪ねても面白く、思いがけない出会いを味わえる魅力的な都心を目指したいと考えています。具体的に言いますと、沿道施設における低層部の賑わいが歩いて楽しい街路空間の一部となっ

ていることや、接続バスによる新たな公共交通システムが描かれていますが、都心特有の交通課題が整理され、荷捌きや人々の乗降など都市活動が円滑に行われ、誰もがストレスなく過ごしていることなどを目指してまいりたいと考えています。

また都市も、面的に捉え、滞留を優先するエリアや通行を優先するエリアというところを整理した上で、道路空間の再配分を検討するなど、具体的な検討もあわせて進めてまいります。

都心エリアではさらに目指すシーン風景として、二つの風景を制作しています。

休日の冬の夜、地上と地下を最大限に活用して季節を楽しんでいる風景です。パースの下には、市民も含めた様々な関係者の皆様とストーリーを共有する目的で語り口調で情景の説明を入れており、都心部の魅力を存分に味わい、体の不自由な方も含めて誰もがそれぞれ楽しめる場所を見つけられる、そんな都心を目指したいと考えています。

例えば、地上では都市部でも自然の雪に触れられる場所や地下では子供の遊び場やマルシェなど様々な活用が可能になっている絵となっています。そして右側が秋の夕方の平日、魅力的な沿道、歩道空間で、誰もが日常を楽しんでいる風景です。

沿道施設との緩やかな連携により、日々何気なく起きる都心での出来事が切り取りたくなるユニークなシーンになる。そんな都心をイメージしています。例えば沿道では気持ちの良いオープンテラスで仕事をしている人や、歩道側では緑化活動を行う人、奥には花を携える人が一休みしている様子などが描かれています。

次に地域交流拠点の目指すまちの姿です。札幌市内 17 ヶ所ある地域交流拠点は、主要な交通結節点周辺や区役所周辺などで、多様な都市機能が集積し、人々の交流が生まれ、生活圏域の拠点となるエリアです。

こちらが地域交流拠点の目指す姿、「行きも帰りも寄り道せずにはいられない賑わい、出会いのターミナル」です。交通結節点という特徴を持つ拠点多いこともあり、スムーズな移動と、それによって生まれる余裕から、思わず寄り道をしたくなるような、そして地域の魅力、人・物・ことに会い、ふと笑みがこぼれるような、そんな拠点を目指したいと考えています。

具体的には、駅前広場において、エリアマネジメント団体等による地域に密着したイベントが定期的に行われていたり、誰もが移動しやすいターミナルとして、バリアフリー化や最適な歩行動線が確保されていたりしていることなどを目指してまいりたいと考えています。

地域交流拠点エリアでも都心同様2つの目指すシーンを制作しています。平日の夏の夜、自然と歩みが遅くなり、思わず寄り道をしてしまう風景です。良好な夜間景観として、低層部が温かみのある灯りで繋がり、また魅力的な民間店舗と連携をし、回遊を生む仕掛けが随所にある街をイメージしています。

センシュアス・シティ（官能都市）でも研究されています、五感を刺激するストーリー

トを形成していくことができればと考えています。そして、平日の夏の夕方、快適に移動ができ、待ち時間さえも楽しんでいる風景です。

交通ターミナルとして地上、地下の移動がスムーズで、通勤通学だけでなく、観光や出張などで初めて札幌を訪れる方にとっても快適で過ごしやすい拠点をイメージしています。高架下を活用したウォークアブル政策である賑わいを導入するということも展開されているところです。

最後に住宅市街地の目指すまちの姿です。図の薄い青と黄色とオレンジ色の面的に広がるエリアを指しておりまして、多様なライフスタイルを支えるエリアとして、居住環境の魅力向上や生活利便性の確保を図るエリアです。

こちらが住宅市街地の目指すまちの姿。自分らしく気兼ねなく出かけ楽しむ自然が彩る心地よい暮らしです。都心や拠点と比較しまして、より日常に近いエリアということで、自然との調和や安全安心に重点を置いており、すれ違う子供たちの笑い声がよく聞こえるような、そんな住宅市街地としたいと考えています。

まさに昨年度バルセロナの視察において、スーパーブロックの中心部に立った際に、車ではなく人々の声が響いているような、そんな耳から感じる心地の良い暮らしというところを目指していければと考えています。

具体的には、札幌の魅力である自然に触れながら強く歩ける散歩道があることや、右下には、地域の歴史景観資源を生かした歩きたくなる空間形成。左下にはパーク・ピーエファイを活用した地域に根ざした魅力的な公園整備。そして気軽に交通アクセスできるモビリティハブを描き、地域生活圏の多様なニーズを受けとめる充実した住宅市街地を目指してまいりたいと考えています。

こちらは住宅市街地エリアにおける二つの目指す風景です。春の昼間、誰もが思い思いに過ごしている身近な公園の風景です。散歩をする人、健康活動をする人、そして1人でゆっくりと過ごす人など、誰もが自分の居場所を感じながら過ごせる公園をイメージしています。

前回の委員会で三谷委員からご指摘いただいております町内会部門との連携ですとか、夏の実証実験で効果が確認された公園に隣接した道路空間におけるキッチンカーの活用なども合わせて描いているところです。そして夏の平日の朝、子供も親も安心して楽しく歩ける通学路の風景です。

昨年度に、フランス・パリの視察で目の当たりにしました学校周辺の子供中心の安全で楽しい通学路というところを参考にして作成しています。ぜひ次世代にこうしたインフラを残していきたいという思いで制作をしているところです。

ここで少し話を変えまして、今年の冬に実施いたしました2つの実証実験についてご報告いたします。場所は、日本で初めて計画的に造成された偕楽園緑地ですが、冬の夕方になると、左側の写真にあるような状態でして3時間で通行人は約6名、平均滞在時間は約4分程度でした。

今回、鉄西第7町内会が中心となり、散策路を作り、スノーキャンドルを灯してコーヒーで暖まることができるキッチンカーやスノーアートの設置を行いました。定量的な効果としましては来場者が約200名、平均滞在時間は約20分と大幅に増加したところです。

また私も現地におりましたが、久しぶりという声を何度も聞きまして前回の委員会で話題となっておりました「おひさしビリティ」という点、交流促進効果というところも確認ができたところです。散策道がお互い声を掛け合いながら、譲り合いながらでなければすれ違えない絶妙な幅だったという点も、交流促進に寄与したと個人的には感じたところです。

また札幌市内でひと冬に制作されるスノーキャンドルの数を調査したところ、約3万個も設置されていることが判明いたしました。札幌市民にとっては見慣れた光景ですが、実は札幌の大切な文化だったのだと気付かされた実証実験でもありました。

次に地域交流拠点、新札幌のエリアマネジメント団体の皆様と共同で実施いたしました新さっぽろワクワク冬の実験フェスタのご報告です。こちらは第1回の委員会で告知させていただき、今年度7月に開設したばかりの官民連携窓口、SAPPORO CO-CREATION GATEを活用した事業です。

普段は滞在者のいない状況ですが、雪上こたつやミニ映画館、雪遊びコーナー、雪上ミニ四駆などを実施し4,103名の方々にご来場いただきました。また、当日は天候に恵まれたこともありまして、雪上こたつへの滞留者も457名を記録するなど、冬の新たな屋外空間活用の可能性が感じられた日にちでもありました。

また来場者の皆様より「周辺の施設と会場を行き来したよ」という声がたくさん聞かれておりまして、普段は各施設にとどまってしまっている賑わいが、この間を繋ぐ屋外空間活用により接続され、エリア全体の回遊性が向上するというのが見られました。

さらに屋外ミニ映画館は、今年度11月に民間事業者の皆様からいただいた政策提言を受けて実施したものでもあり、民間のアイデアを実現できた機会ともなりました。これらの冬のウォーカブル実証実験を受けて制作したのが屋内外を行き来しながら冬を満喫している風景です。

冬季の多彩な屋外空間活用はもちろんのこと、屋内施設との連携により、より安心して快適に冬の都市空間を楽しむことができると考えています。また屋内施設には、エリアマネジメント団体の拠点を置くなどして、屋内外の空間活用に積極的に関与する姿も望ましいというご意見もいただいていたところです。

12枚目最後の目指す風景として、観光地のウォーカブルです。札幌市の魅力は都市だけでなく自然、そして観光地にもあるということで、大自然と非日常を味わい、思わず散歩したくなる風景を制作いたしました。

こちらは温泉街ですが、河川空間の活用や紅葉を楽しめる足湯など、随所に散りばめ

られた魅力で、普段とは全く異なったウォーカブル体験をすることができると考えています。以上 12 枚のパースをこれまでお示ししましたが、もちろんこれで完成ではなく、むしろ今後のコミュニケーションツールとして使用し、残り 1 年間をかけて官民が連携してブラッシュアップしていければと考えています。

第 2 章まで前半部分の資料説明は以上となります。進行を有村委員長にお返しします。

○有村委員長

ありがとうございました。それではただいま事務局より説明がありました、第 1 章ウォーカブル推進の目的、第 2 章目指すまちの姿、第 3 章冬のウォーカブル実証実験につきまして、委員の皆様方よりご意見ご質問等ございますでしょうか。

○林委員

ご説明ありがとうございました。まず「おひさしビリティ」という世界初の言葉は明文化しないことになったということでしょうか。

○事務局

明文化しないということではありません。

○林委員

ありがとうございます。ウォーカブル実証実験に関わらせていただき、当日、とても寒かったのですが、屋外コタツ稼働率が 100%を超えるということがありました。ずっと誰かが入っていて、結構面白いと思うのですが、実は全然温かくないです。途中トラブルで電気が消えて、ただ布がかかっている状態でした。ですが、その雰囲気や、雪の中でみかんを食べながら家族で談笑するなど、そういう居場所が普段はないので、この取組に利用者が感じるものがあつたのではないかと感じており、これは一つの気づきでした。

全般を通して、意見させていただきたいことがありました。パースがすごくわかりやすく、キャッチコピーもわかりやすいと思いました。

ただ、全般的にこれらは何年後の絵なのでしょうか。20 年後なのか、でも現代のようでもあり、そのあたりを明示しておくといいかもしいと思います。これは 20 年後のビジョンですが、パースで描かれているのは二、三年後ですなどと明示するのが良いと思いました。

都心については、時間軸を入れるとどうでしょうか。ジャストアイディアですが、パースは完成した絵になっていますが、都心部も色々な開発がどんどんローリングしていくようになっていきますので、暫定空間もあると思います。開発前の空間で、少し工事前でプレイスメイキングをしているとか、そこからまた次の文化が生まれたり、そのような暫定利用しているような動きを取り入れることで、すごい時間軸を感じるように表現できるかなと思い、アイディアとしてお伝えしました。一旦以上です。

○有村委員長

はい、ありがとうございました。事務局よりお答えやコメント等ございますか。時間軸のお話が出てきています。

○山内プロジェクト担当部長

時間軸ということは、我々の検討チームの中でも実は言葉として出ています。林委員ご指摘の通り、その時間軸を意識した複数のイラストで示すということもできないかというのも考えたのですが、一方で、数年後、例えば交通関係やモビリティがどうなっているのかということを考えると、なかなか表現するのは難しいというのが正直なところです。

今回作成したイラストも、二車線あったところをイメージしながら、一車線に変えているところを表現しているのですが、最終的に公共交通しか通らない道路とした場合に、それに対する市民の受け止めに想定した今回のイラストになっています。

○有村委員長

はい。ありがとうございます。それでは他のご質問ご意見等はございませんでしょうか。

○山崎委員

まず、「Well-Moving」をコンセプトビジョンとして出すということ自体は、すごく良いことだと思っています。より、このコンセプトを野心的にビジョンの中で位置づけても良いのではないかなとお話を聞きながら思いました。

具体的に言うと、例えばウェルビーイングだと、国際的に5つぐらいの質問を通じて状態を測る指標みたいなものが確立していたりします。

それは例えば、「楽しい気分で過ごした頻度」や「リラックスできた頻度」、「ぐっすり休めた頻度」などの質問によって構成されています。

今回の「Well-Moving」という言葉を出すにあたって、このビジョンの次の章以降で有効な手法や効果的な取り組みを示すことで、「何を効果」としたいかや「どういう効果」を狙いたいかが「Well-Moving」に紐づいて示されていると良いと思いました。

その一つの具体的な指標が「おひさしビリティ」であったら嬉しいなと思っています。他にも、「季節の変化を感じた」などが、移動中の体験として位置づいている「Well-Moving」という言葉の一つの要素として位置づいていると、Well-Movingな状態というのは結局どういう状態かということが評価できる形になるので良いと思いました。

このようなアイデアに対してどうかということを事務局の皆さんにも聞きたいです。

また、もし可能であれば交通の部署の皆さんに「移動」が安心安全の他に何か付帯的な価値として捉えてもらって、ぜひお伺いしたいなと思った次第です。

○有村委員長

事務局の方への問いかけで、移動の付加価値ということで、当然、安全安心につきましては必要な機能だと思いますが、それ以上に、移動することによって出てくる新たな価値をどうやって評価するべきかや、そもそもこういった価値があるのかといった

ご質問だと思いますが、事務局の皆様いかがでしょうか。

○山内プロジェクト担当部長

今の山崎委員のお話は、例えば「Moving」という言葉の持つイメージを分解すると、それぞれどのような言葉に置き換わるのかということを議論して、ある程度言葉をカテゴライズするような作業をイメージされたということでしょうか。

○山崎委員

はい。おっしゃる通りです。

○山内プロジェクト担当部長

実は、キャッチコピーもこの数週間で出てきておりまして、いくつか候補がある中で、一旦、このキャッチコピーに落ち着いてはいます。

ですが、今、山崎委員がおっしゃった、言葉が持つ意味について、人それぞれの捉え方が、この関係者の中でもまだバラバラなところがございます。今のご意見を踏まえて、みんなで議論して、この言葉を通じて市民の方に持っていただくイメージを打ち出せるようにしたら良いと感じました。

○山崎委員

ありがとうございます。

○有村委員長

それでは他に、ご質問ご意見等ございませんでしょうか。大藪委員お願いします。

○大藪委員

山崎さんの内容に関連しますが、「Well-Moving City SAPPORO」は、とてもいいキャッチコピーだと思っています。「Well-Moving City」ということはどういう状態なのか文章ではわからないと思うので、ダイアグラムにしてほしいと思いました。

「Well-Moving City」がどういう状態で、どういう価値があって、その価値が評価指標に繋がっているなどの流れがあると良いと思います。例えば、骨子をもっとシンプルしたときに、この「Well-Moving City」が例えば5つぐらいの状態があってそれに紐づきながら絵が描かれているなど、政策に展開することもあり得ると思います。

世界を見ても優れた計画というものは「ダイアグラム」でわかりやすく表現されているものだと思っています。札幌市がこの後議論をされるのであれば、なおさらそういったものをたたき台にしながらやっていく方がいいかなと思います。

ですので、きちんと図式化した方が良いと思います。ビフォーアフターなどを展開するなども含め、そこに時系列も入れながらぜひ模式化してもらえば良いのではないかと思います。

○山内プロジェクト担当部長

今回はイラストで示させていただいた中にいろいろコメントを入れています。人の状態を説明している文章も結構あり、市民の方にも響くのではないかなというのを感じ

ました。

○林委員

評価指標は、どこかの章で示す予定ですか。

○事務局 札幌市まちづくり政策局政策推進課 阿部

ビジョンの中では、評価指標は示さない方向性にしています。この後作成する予定の推進計画・戦略の中で設定をすることを検討している形になっています。

○林委員

そこがとても大事だと思います。議論していたかは記憶がないのですが、大藪委員とか山崎委員が言っていた、ビジョンを示して最終的に行動変容がどう起こっていくか、そのプロセスがないといけないと思います。

ですが、そこで何を評価してこの20年間歩んでいくかというストーリーやロードマップ、多分4章に少しかかってくると思うのですが、推進計画と合わせて何か考えていけると良いのかもしれませんが。その中でこのビジョンで示すのはここまでですというような説明をするのですとか。意見でした。

○有村委員長

第4章のところや、どのようにこれをマネジメントするのかというところにやっぱりかかってくると思います。

34 ページぐらいのところかと思いますが、その中でもあまり細かい指標まではまだ議論できていない状態かと思います。

あと、単純に徒歩の交通量等は交通調査を行えばわかりますが、偶発的な出会いとか交流的なものに関する「おひさしビリティ」みたいなものは、アンケート調査のようなものでないかわからないかもしれません。

ただ、それを毎年やるのかという話もあるので、こういった調査や統計と絡ませて確認していくのかという他の交通計画との横軸の体系の中で、このウォークアブルビジョンをどう評価するかというところがまだ整理されてないのかもしれないと思いました。個人的な感想です。

○事務局 札幌市まちづくり政策局政策推進課 阿部

補足させていただきますと、そのビジョンの中で指標を作らないというのはやる必要がないと言っているわけではなく、今、林委員がおっしゃったように、例えば、推進計画もトータルで考えた上で推進計画の方で指標を設定するにしても、ビジョンができてから指標を考え始めるのでは遅いというご指摘だと認識しているのですが、まさに同じ思いでして、ビジョンの中では明確に設定しないにしても、その先とのストーリーを作っていくながら検討していく必要があるなと我々としても思っています。

○林委員

わかりました。

○有村委員長

はい。他にご質問ございませんか。

○泉山委員

今まで出てきてない意見としては、アイレベルの重要性ということをもう少し触れてもいいかなと思いました。

たくさんパースがありますが、1階をアクティブというのはもちろん、5階ぐらいまでの低層部が街からアクティブに見えているか、あるいは交流空間があるのかということも大事なので、それが「賑わい」という言葉だけだと伝わりづらいかと思ったのでその辺りも触れていいかなと思いました。

それから、パースで将来を表現していることは良いのですが、一方で、重要な要素がわかりづらいかなと思います。この目指すシーンを実現するには、どういう要素をクリアしていけば実現できるのかという部分が、後ろの手法ではそれぞれ書いているのですが、この手法との繋がりが現時点だとわかりづらいかなと思いました。

ロードマップの話もありましたが、それぞれの対象エリアの中で、シナリオがもう少し見えてもいいのかなと思いました。

東京の中野や福岡はいろいろ議論していて、しばらく開発が停滞するというのは見込まれます。それまでの間にどうやってリノベーションやアイレベルとかでエリア価値を上げて、開発が動き出せるときにどうやって移動するかというようなところもあり、シナリオメイキングというようなところは大事だなと思いました。

27 ページで6個ぐらいの要素があったと思いますが、ウォークブルのメリットは車利用を下げてCO₂削減ということもあるはずで。ウォークブルをやっていくメリットや、効果みたいなものが最初の段階であると、多くの人に共感を得てもらいやすいのかなと思います。

推進体制のところで、4セクターがそれぞれ何をやるのか書いてありますが、割とタスクベースになっている感じがあるのではと思います。それはいいのですが、行政や企業はどういう役割を担ってこのウォークブルを進めるものか、骨子の前段にあたる部分で記載があると、このタスクの部分がスムーズに行えると思いました。

○有村委員長

ありがとうございます。

○三谷委員

2つ意見があるのですが、まず「Well-Moving City」というコンセプトはすごくいいかなと思いました。今までの検討を踏まえて積み上げ式でビジョンの骨子を作ってきていると思いますが、コンセプトが出てきたことで、「Well-Moving」というものが元の目的としていた3つの課題を解決するという前段の部分を整理した方がいいのではないかなと思いました。

市民の移動の困難というところの解像度を上げて、1章の目的の部分に追加するとより説得力のある骨子になると思いました。また、移動ということに対して、札幌ならではの仕組みをどう構築するのかということが計画の中で大事になると感じました。

2点目は、私は札幌在住ではないのですが、パースの中では「さっぽろらしさ」を感じづらいと思いました。大きなビジョンなのでどこまで表現するかというのは議論があると思うのですが、例えば、スノーキャンドルについては市民の方々には馴染みがあるかもしれませんが、私は関わるまで知りませんでした。なので、そのような20年先まで引き継ぎたい文化というものが、ビジョンの中で示されていると良いと思いました。

○山内プロジェクト担当部長

ただいま、三谷委員からいただきました2点のうちの、まず1点目。まさにその通りでございまして、今回、骨子案ということで言ってみればパーツを投げさせていただいたということです。

ですので、これが一連のビジョン、読み物としてしっかり説明力を持つように隙間を埋める作業は次の会に向けて進めてまいります。

それからその前に、泉山委員からいただいたお話の中で、アイレベルの重要性やパースの中の要素みたいなこともお話して参りました。現在このビジョン作成と並行して、札幌市の都市計画マスタープラン、あるいは都心まちづくり計画というのを同時並行で改訂作業を進めているところです。

これからの都心のまちづくりでどのようなものを評価してどのような要素を評価していくのかということも今まさに検討しています。今議論しながら、イラストの説明力を高めるような作業をしているところです。そのようなことを進めることで、泉山委員からのご意見について少しお答えできるような結果に近づくのかなと感じています。

○有村委員長

ありがとうございました。他にありますか。

○道尾委員

道尾もよろしいでしょうか。

○有村委員長

お願いいたします。

○道尾委員

はい。ありがとうございます。今三谷さんからご指摘のあった、市民の移動の困難さという課題把握のところを、この計画においてどれだけリアリティを持って次のビジョンとして語っていくかというそのステップは本当に重要だと思って聞いておりました。

先ほどの資料の中の重点項目の最初にも示されている、第1章ウォーカブル推進の目的に、今回は「Well-Moving City」という言葉があります。改めて、例えば9ページのスライドに立ち返ると選ばれている言葉であるとか、採用されている写真がリアルな情景なのか、それともビジョンとして未来を描くものなのか素材を練ることができると思っています。

例えば「みどりとともに暮らせる」について、今のハッシュタグではないところで考えてみると、パースの中で阿部さんの語りでプレゼンしていただいたときに、北海道は4月後半から5月にかけて桜や梅が同時に咲く地域性、本州とは違う時間軸でときが流れているということを自然からというか並木からも感じるができると思います。

プレゼン資料の中の「街路樹」という言葉は、ウォーカブルな歩行空間を形成するものとしてはすごく要素が大きく、現状札幌の街並みの中ではイチョウなどが、街路樹の経年劣化等が原因で軒並み切られている、剪定されている状況が市民としては物悲しいと感じるときもあります。

それから、公園や敷地内の緑化率に関しても、大型な施設ではなく緑化を保っていくことによって歩行空間とか沿道空間についての快適性を保っていくことは、札幌市のチェック項目として今までも機能していると思います。この緑とともに暮らせるということに関して、どんな言葉が選ばれたりシーンとして描かれたりがあるのかなということを感じて聞いていました。

このスライドがやはり気になるんですけども、円滑に移動できるというのはポロクルやサイクリングの話が出てくるかと。ウォーカブル推進の話で見たときに、子どもやユニバーサル、事故対策とかでハッシュタグが作られていて、それは例えば、高齢者や介助者が必要な市民、それから運送業の皆さんの話など市民生活にリアリティを持った人たちがいると思います。

なので、この辺のページのあり方が改めて気になるということが今日一連を聞いていて重ねて思ったところでした。まずこの点についてコメントでお返しします。

○有村委員長

はい、ありがとうございます。ただいまのご意見コメントにつきまして何かございますか。事務局の方で。

○山内プロジェクト担当部長

1点目の街路樹の話です。私個人の反省ですが、緑という観点について思いを巡らせる部分が少なかったと、お話聞いていて感じています。

実際に自分が街中を歩いているときにどれだけ緑に目をやっているかということだと思のですが、実際に、街を歩いてみてどういったことが感じられるかというのを我々チームの人間自身がもっと視野を広くして歩いて感じてみないと駄目だということを改めて感じたところです。

ハッシュタグについては、一旦は骨子ということで正直なところ、ひとまず関連する言葉を集めているという状態です。

道尾委員からお話あったように、この5つの目的をしっかりと噛み砕いて改めて細かく作業し、最終的に何をするかというのを考えてみたいと思います。ありがとうございます。

○道尾委員

ありがとうございます。今日も、札幌は雪が降っていて、積もっています。冬に戻った3月の中旬の景色です。これが札幌の街だなという感じが今もまさにあります。

でも札幌は、夏も過酷です。街路樹が保育園児の散歩のときの信号待ちするときに、こどもたちを街路樹の周りに出来ている木陰に避難させるというような状況も1年の中ではあります。

街路樹は、除雪にとっては障害物のような印象もありますが、札幌市の今の気候状況だと、ニーズも高いということもあると思います。たまたまトピックで、街路樹を扱いましたが、ウォーカブル環境にとって必要視されているのは確かだと思います。

○有村委員長

はい、ありがとうございました。

1章2章につきまして、皆さんから少しずつご意見をいただいたとは思いますが。私から一言だけよろしいですか。

14ページと15ページなのですが、都心に関しては、特殊な場所だと思って見えています。国際競争力を備えた高次の都市機能が集積するエリアの絵が15ページ目になりますが、普通に見えます。先ほど、フルモールやセミモールのような公共交通しか入れない、一般車両を締め出すようなエリアにしてしまうと、ハレーションがあるかもしれないとコメントがありました。

このことに関して、少なくとも大阪の御堂筋は反発もあるとは思いますが、将来の絵を出しています。この絵はパースのため、あくまで一つのポイントでしか見ることができませんが、一部の区間では道路空間を再配分している、別の区間では都心交通アクセス道路が繋がって幹線的な役割を持たせているなど、道路ネットワーク全体を表現している絵があってもいいのではないのかと思います。

少なくとも15ページ目を見て、何か未来を感じる印象を私は受けていなくて、「よく見る絵では」という感じです。まだ揉みがいがあるかなと思って見ていました。

2038年に新幹線延びてしまい、開発がやや遅れていくのではないかという話もあります。ただ、インバウンドは戻ってきている中で、地下歩行空間は歩くものの、何か目的を持って歩いているようには見えないかと思います。

ぶらぶら歩きながら発見が連鎖していくような場所というのはやはり地上だと思うの

で、そうしたときに、国際的な競争力という言葉を使うならば、まだまだ開発のしがいもあるのかなという印象は持っています。

それをやらないと札幌に行きたいと思ってもらえないのではないかとということで、このパース側はもう少し色々検討の余地があると思いました。以上です。

○総合交通計画部長小林
総合交通計画部長小林です。

有村先生がおっしゃっていたようなことを我々も内部ではいろいろ議論しています。都心に、通過車両などが入らないように、環状通りや創成トンネル、そしてトンネルを連続化するなどハード的な整備をしてきています。

このウォークブルみたいなことが世の中の的にも注目されてきていますので、機運のようなところにも乗っかり、どこの道路をどうしようかという議論をきちんと行なっていけば、いわゆる交通量の量的な問題解決をする方法あると思っていますので、引き続きで議論していきたいと思っています。以上です。

○有村委員長
暫定的にバスターミナルが空間的に分散していますが、改めてある程度長い時間運用するということを考えると、ウォークブル政策や道路空間再配分の政策と合わせながら、もう一度面的に再編する可能性もあるのかなと思っておりました。

引き続き内部で議論されるということでしたので、いいタイミングでいろいろ教えていただければと思います。

○山崎委員
道尾先生からご発言があった街路樹などの緑化の部分は、第3章の有効な手法例に書いてあるように「複合的な行政戦略を推進計画によって対応予定」ということが課題の根底にあると考えています。

都市においては、全体戦略として道路ネットワークをどうしていくのかななどを議論してない中でこの絵が出てくることの物足りなさみたいなものが根底にあると思います。

パース自体を見たときに、道路が以前と変わっていない、もう少し新しい交通も含めてほしい、全体戦略として緑のネットワークってどうなっているのかながないと解決しないと思います。

ただ、今の立て付けの中で既に最初にビジョンを出すとなっているので異議を唱えるつもりはないですが、そこがない中で議論していいのかなというのはやはり根底にあると思います。

○有村委員長
はい。ありがとうございます。コメントで第3章のお話をいただいたので、第3章のご説明をいただいてから意見交換にしたいと思います。それでは事務局の方から3章

以降のご説明をお願いいたします。

○事務局 札幌市まちづくり政策局政策推進課 阿部
はい。 有村委員長ありがとうございます。

都心については、都心まちづくり推進室の方で面的な計画を担当して、もう少し具体的なものもございますので、それについてはまた別の機会でご紹介できれば良いと思っています。

第3章からは有効な手法例、モデルケースの紹介についてご説明いたします。本章のポイントは、第1章でお示したウォーカブル推進の目的、5つの重点方針ごとに代表的な手法等を紹介するものです。

札幌市役所として進めていく今後の複合的な行政戦略というものは、今後策定を予定している推進計画に譲ることとし、本章では現時点で活用実績のある手法等を地域住民、企業団体、行政の主体別にカタログ的に整理しているものです。

こちら第1章の振り返りになりますが、こちらの5つの重点方針ごとに分類してご説明をさせていただきます。

まず一つ目、持続可能なまちで緑とともに暮らせることです。大きく地域住民、企業、団体、行政と分けて記載していますが、地域住民であれば、町内会やボランティア団体による美化活動が特色のある緑地空間を創出し、また地域の交流を促進することにも貢献するものと考えています。

次に企業団体では、民有地の緑化を挙げています。こちらは札幌市としても誘導している政策ですが、良好な景観形成や環境面などに効果が高く、実際のアンケートでも約77%が「緑地空間にまた訪れたい」と回答をしています。

最後に行政では、近隣の再生可能エネルギーの一つである下水熱を活用したロードヒーティングを導入しておりまして、札幌の大きな課題でもある冬季の安全な歩行環境の実現に寄与するものです。

次に、歩くことが楽しく健康に暮らせることです。前回の委員会におきまして、歩行による身体的な健康以外にも健康効果をもう少し深掘りするべきではないかのご意見いただいておりましたが、市民の公共空間における健康活動では、実際に今年度9月に実施した「100人フィットネス」というものがありまして、そちらでは身体的な健康だけではなく心理的社会的な健康の向上にも寄与するものであったと考えています。

次に、中段の民間の商業・業務施設整備におきましては、1階にガラス張りの店舗を入れたり、歩道沿いに広場を設けて緑化や休憩施設を誘導したりしています。こちらは、快適な歩行空間の創出や周辺のオフィスワーカーの憩いの場を創出する効果もあると考えています。

最後に、行政主体のウォーキングマップ作成やコースの整備ですが、こちらはこれま

でもチェックしている区役所で実施している手法で、それを改めてウォーカブル観点から再評価し連携を深めてまいりたいという意図でこちらに記載しています。

次に、誰もが安心して円滑に移動できることです。昨年度の冬に転倒して救急搬送された人数は過去最多の 1887 人にもおよび、大きな課題となっていますが、誰もがすることとして、生活圏域における砂まき活動があります。冬季の歩行環境を支える重要な役割ということでこちら明記させていただいています。

次に、企業団体といたしましては、市民意見でも毎回好意的な話題に挙がっています「シェアサイクル」を取り上げさせていただいており、円滑な移動だけでなく、環境負荷を低減し、健康増進効果も見込まれる手法であると考えています。そして、もちろん行政として自転車通行環境の整備に合わせて取り組む必要があり、ウォーカブル政策の観点からも推進していく必要が高いと考えています。

最後に、行政政策としてバリアフリー経路の複数化を挙げていますが、誰もが安心して移動できる環境整備を進めるためにも非常に重要な手法であると考えています。

次に、居心地が良く自分らしくいられる場所があることです。ここであえて地域において、文化としてこれまで引き継がれてきた公共的空間を活用したお祭りイベントを取り上げさせていただいています。

これは、前回の委員会においてご指摘いただいております、これまで地域が取り組んできていた活動というものもしっかりウォーカブルの観点から再評価すべき、とのご意見を踏まえまして、改めて有効な手法として掲載をさせていただいているものです。

また、中段の公共的空間におけるオープンスペースの設置につきましては、今年度 9 月に行った実証実験においても、滞在者数が 1.6 倍になるなど、居心地の良い空間創出に貢献することが確認されています。

最後に、地域に身近な公園の再整備ですが、札幌市内に 2000 ヶ所以上もある街区公園の更新をただ行うのではなく、それぞれの公園に役割を持たせて、毎年 30 ヶ所程度の再整備を実施するもので、今年度のアンケートでは約 7 割が公園の印象が良くなったと回答しており、自分らしくいられる居場所作りにも寄与していると考えています。

最後になりますが、札幌らしく四季を通じて歩きたくなることです。先ほど冬のウォーカブル実証実験でもご紹介した地域主催の空間活用イベントも、行政主導ではなく、地域みずからの手で冬の都市空間を変え、そして育てていくということが大変意義深く、エリアの回遊性向上や外出促進にも寄与するものであると考えています。

次に、河川空間を活用した川見ですが、札幌の短い夏を自然とともに楽しみ、河川に安全に触れる機会を提供することで今年度は 15 日間で 3 万人以上の来場があったことより、札幌の夏の文化にもなり始めているのかなと思っています。

一番下、最後が今年度 12 月に整備した「雪見ができる足湯」というところも非常にユ

ニークで、周辺の観光施設等との連携により、回遊性の向上にも寄与するものであると考えています。

以上が、5つの目的ごとに整理した有効な手法例の紹介でしたが、あえて既存の手法も多く掲載することで市民の手の届く範囲にウォークابلを置き、まちづくりを自分ごととして捉えていただき、ぜひ一緒に取り組んでいきたいとの思いで選定掲載をしているところです。

最後の章になります。第4章、産学官民協働による推進体制支援策の方向性についてです。本章のポイントは、目指す後の姿の実現に向けて産学官民の協働体制を明確化すること、また支援策については、今年度実施した様々な実証実験主体から寄せられた要望を中心として、庁内横断的な対応について検討を進めているところです。

こちらは前回もお示した推進体制と空間活用サイクルです。前回の委員会において、現場の監理部門とまちづくり推進部門との連携フローが明確になっていることが重要というご意見をいただいておりますので、現在具体的な体制について庁内で検討を進めているところであり、次回の素案報告の際にはその概要をお示しできればと考えています。

また、行政が一方向的に役割分担を押し付けることがないよう、特に新年度に入ってからですが、各セクターとの対応を重ねて検討を進めてまいりたいと思っています。

特に、行政が果たす役割、先ほどお話もありましたが、そのようなところについて、他都市あるいは世界としての知見をお持ちの委員の皆様にもぜひアドバイスをいただければありがたいなと思っています。

最後に、支援策の方向性についてです。こちらも前回同様、整備・活用、手続き・許認可、担い手の育成という3軸で庁内検討を進めており、特に公共的空間活用ガイドラインの作成については、他都市事例も参考にしながら検討を進め、実証実験団体から要望のあった手続きの簡素化というところとセットでまとめることができればと考えています。

また、歩行者利便増進道路制度の活用につきましても、具体的に地域から相談を受けているというところですので、さらに深めてまいりたいと考えています。

人材育成については、行政としてやるべきことはどこまでかというところも少し再整理した上で、次回、素案にてお示しできればと考えています。

事務局からの説明は以上となります。ありがとうございます。進行を有村委員長にお返しいたします。

○有村委員長

それでは、ただいま事務局よりご説明がございました第3章有効な手法・モデルケースの紹介および、第4章、産官学協働による推進体制支援策の方向性につきまして委員の皆様よりご質問、ご意見等ございますでしょうか。

○道尾委員

一つよろしいでしょうか。

○有村委員長

お願いします。

○道尾委員

まずは、3つしか手法イメージの掲載がないことがどれほど柔軟なのかをまずお伺いしたいです。

今回、「こどもまんなかまちづくり」などのキーワードがある中で、現状、砂箱の件もありますがスクールガードさんの活動もあると思います。こどもたちの安心安全なウォーカブルな環境に関して人的に守っていく人たちの活動というのは日常的に市民が力を発揮できるところじゃないかと感じています。

また、主体っていうのが地域住民だけではなく、社会医療法人や老人クラブなど色々な諸団体がスクールガードや幼少のこどもたちのお散歩など、全般的にこどもたちを育てていくことにも波及がもしできるのであれば、このようなことも今回ビジョンの問題提起に含まれると考えています。

これらの内容も、モデルケースを3つだけに集約するのは難しいというコメントでした。

○有村委員長

3つにこだわっているわけではないとは思いますが、どの程度ビジョンの中で示すかということで何かお考えございますか。

○山内プロジェクト担当部長

ご意見ありがとうございます。ここについては、骨子を整理するに当たってのイメージしてもらうために掲載したのですが、逆にそのイメージを固定化してしまうという懸念があると感じました。

基本的な考え方みたいなものを前段で整理した上で、例えば、このようなモデルケースを載せるなり、構成を工夫して説明力を高めるという作業をする必要があるのかと感じているところです。

○道尾委員

ありがとうございます。もう一つメモしていたことがありまして、今回の実証実験、冬のウォーカブルを私も訪問させていただいて、実施主体の方々の熱意や実行力などに非常に感銘を受けました。

その上で、エリアマネジメント団体等の積極的な関与がいかにウォーカブルの原動力になっているかと感じました。

札幌市では、自治会・町内会の加入率は低迷し続けていたり、地域に各種あるまちづ

くりセンター、いわゆるまちセンなど地域の主体がウォーカブルの活動にどういう接点を今後築いていけるのかという課題も札幌の中にはあるということを改めて感じながら、後半個人的な感想ですが聞いておりました。以上です。

○有村委員長

その他、ご質問ご意見等ございませんでしょうか。

○泉山委員

手法・支援内容について、札幌市は全国の自治体の中で先進的に既に都心を中心にいろいろなことをやられていると思うので、それらとこれから考えなきゃいけないものと分けて書くとわかりやすいと思いました。

○有村委員長

事務局からコメントございますか。

○山内プロジェクト担当部長

先ほど冒頭でも、庁内に連携した組織だてをして検討を進めていますというお話をしていたところなんですが、各部局で色々とウォーカブルの捉え方があり、どれがウォーカブルに寄与するのか、そのイメージが庁内で一致できているというところまでは至っていないと思っています。

その辺の基本的な考え方について庁内できちんと意識を合わせると、今まではウォーカブルにあまり関係ない事業だと捉えていたものがウォーカブルに繋がる事業だったということが出てくると思いますので、庁内で議論進めていければと思っています。

○有村委員長

ありがとうございました。他に、ご質問やコメント、ご意見等ございませんでしょうか。

○山崎委員

私も札幌市がすごく先進的な取り組みをしている部分があると思います。都心のエリマネとか、公園で言えば小規模公園の役割分担って、政令市で一番先んじて取り組んでいるのではないかなと思っています。

有効な手法例のところに既存の施策を記載していただいているのですが、もっと積極的に既存の施策をウォーカブルに認定することを明確にしても良いと思いました。

実施している施策でも「ウォーカビリティの向上に寄与する」という視点からとても重要と認めるとともに、例えば、小規模公園だとどういう場所で実施するかというGISで、機械的に大きい公園の近くに小さい公園があり、かつ老朽化の年数が経っているといったことを鑑みて決めていると伺ったことがあります。

都心やエリア別のウォーカブルについてはこのビジョンで考え、エリア設定とクロスさせたときにエリアの特徴に合わせて施策を行うと、よりウォーカビリティという観点にも寄与する、より合致する内容になるといったことが方向性として大事なので

はないかと思いました。

ウォーカブルは特定のことを実行すればアビリティがとて上る、その太い1本の矢みたいなものを見つけることも都心等ではもちろんありうると思います。ですが、今回、札幌市がやろうとしていることは、都市のウォーカビリティを上げるビジョンを作っているわけではなく、市全体、全季節、色々な時間帯のウォーカブルについて言及するという網羅的なことをやろうしているので、対応した細いたくさんの矢をいかに準備するかということなのでは無いでしょうか。

今から全てを準備するのは大変なので、札幌市が既にやっていることがウォーカビリティの向上に繋がっているとまずは認めて、さらなる改善を行政的に進めると割り切ってしまうのが良いと感じました。

なので、もしかしたら取り組みとして新しいことが始まったように見えないかもしれないけれど、実は、じわじわと鍼治療のように体の健康状態が良くなっていくみたいなウォーカブルビジョンなのではないだろうかと思った次第です。

○有村委員長

はい、ありがとうございます。鍼治療という言葉出てきましたけども、ポイントをつく形の施策と、横断的に様々な政策の中でウォーカブル政策として認めることができるものが多々あるというところを見ながら横串を通していくようなお話をいただいたと思いますが、事務局の方でコメント等ございますか。

○山内プロジェクト担当部長

話が少しずれてしまうかもしれないのですが、現在札幌市ではこのウォーカブルと合わせてユニバーサルの取り組みを全市的に進めているところです。その政策を進める中で、一旦、今取り組んでいることは、既存の事業をユニバーサルの観点から棚卸作業をしたところでは。

今までユニバーサルを意識していなかった部分を、各事業を棚卸し、どこがユニバーサルに紐づいているのかということを改めて見つめ直すことで、全市のユニバーサル施策やこれからどうあるべきかのヒントが見えてくるという作業でしたが、似たようなことをウォーカブルでもしてみると、何か新しい既存の事業の結び付けで新しい取り組みが生まれる可能性がある印象を受けました。

○山崎委員

ありがとうございます。欲を言えば、そこに先進的な施策をウォーカブル施策に認定するだけではなくて、先ほど道尾先生がおっしゃっていたような、課題があるとみなされる街路樹政策もウォーカビリティに大きく繋がりをいう施策だという意味で認定をして、街路樹施策を考えると道路課と一緒にウォーカビリティの観点から街路樹のあり方を協議するようなことができていくと、より効果的にじわじわと物事が変わっていくのではないかなと期待するところです。

○有村委員長

ありがとうございます。貴重なコメントありがとうございました。

○大藪委員

支援内容を素晴らしいなと思って聞いていました。その上で、他の委員の皆さんからもありましたが、札幌市は先進的な自治体と日本を引っ張る先進的な自治体であるべきだと僕は思っています。

その中で、行政の支援も日本の他の自治体ができないことをぜひやっていきたいと、この委員会を通じて思っています。そういう意味で、今並べていただいているものは他の自治体さんがやられていることの星取りをしていたような印象もあるので、先進的な海外の自治体も学ぶことを、来年度以降是非やっていきたいと思っています。

例えば、細かい支援策の他で言えば、行政がデータセットを用意して民間が使えるようにしていく事を向上していったらどうかと思っています。札幌市もスマートシティ化によって空間活用において使用できるところがすぐわかる、利活用の状況がマッピングされていて市民や団体が使うようなことができる、モビリティや街路樹や交通状況も合わせて見ることができるなど、データ活用のことなど既存の枠組みを超えて発明して、日本の中でも先駆けている場所であってほしいなと思い聞いていました。

○有村委員長

はい、ありがとうございます。激励のようなコメントですが、山内さん何かございますか。

○山内プロジェクト担当部長

ありがとうございます。皆さんに期待していただけているということがひしひしと伝わってまして、札幌市の責任というのも大きいなと感じているところです。

大藪委員からお話あったような ICT 活用という部分は、なかなか我々のチームだけでは立ち行かないところですので、これは少し長期的な目線で庁内的に活用について考えて話したいというところです。

○有村委員長

はい。ありがとうございます。

○泉山委員

先駆けてということであれば、税制優遇でウォークブルを推進するという方法もあります。市民緑地認定制度、アイレベル系の一体型ウォークブル推進税制等、短期的には税収下がりますが、それによってスタートアップや、新しい中小の不動産活用、ゼロカーボンシティなどを促していく。住宅地でも使えると思いますので、そういう形もあるのではないかと思います。

MINTO機構さんがまちづくりファンドとかファイナンス系の融資が色々あるのと、地銀との連携で地域型のまちづくりファンドやリノベーションなど、小さい事業を支援するみたいなのところもあります。

公共空間活用はどこでもやっているところはあるので、そういったところもあるのかなと思いました。

○山内プロジェクト担当部長

今回の検討にあたって、税制の部分について庁内議論は及んでおりません。やはり仕組みとしては、税制部門はその事例がない等でハードルが高い部分もありまして、我々もそこに少し距離を置いてしまっているのが正直なところですよ。

ただ一方で、札幌市で取り組んでいる公民連携の事業を拡充させていくという取り組みを進めるにあたって民間の方からは、いかに税制を軽減しながらまちづくりに貢献できるかということをご意見としていただく場面が多くなっています。なので、税制の部分の検討は、我々行政としてもこれからきちんとまちづくりと絡めて考えていかなくてはと考えています。

これは少し時間がかかる部分ではありますが、一つ宿題として認識していきたいと思います。

○林委員

関連して、制度とかガイドラインなどの関係図をわかりやすく書いても良いと思いました。

全部のことをウォークブルビジョンで言うのは難しいと思いました。ウォークブルビジョンは次元が違うのかとも思い始めてきて、制度計画とか制度とか、また新しいことをやって横串に刺すようなビジョンなのかとも思い始めました。

ウォークブルボーナスポイントや、ウォークブル認証制度を横に串指すようなイメージで都心開発誘導がある、公共空間ガイドラインの中にウォークビリティがあるというような、すべてをこのビジョンの中だけで完結するのは難しそうな気がします。横連携のわかりやすい図のような表現があるといいかなと思いました。

都心まちづくり計画やこのガイドラインなどの関係性等について、もしお考えあればお聞かせください。

○都市まちづくり推進室 稲垣室長

都市まちづくり推進室長稲垣です。林さんありがとうございます。

今回のウォーカブルビジョンに関してまずお話させていただきます。ウォーカブルビジョンは全市的な視点からのウォーカブルの必要性や、あるいはエリア別の特性を踏まえた政策の方向を俯瞰的に整理するものです。それを受けて都心の中で実際にどういった視点でウォーカブル施策を展開するのかを書くのが都心まちづくりの計画で、対象とするエリアの広がりの違いで役割分担して政策を進めるようにそれぞれのビジョン計画を作っていく形で、現在同時並行で進んでいます。

実際に取り組みを進めていく視点、特に都心において政策展開をイメージしてどういう視点かを考えると、都心は格子状に街路が整備されていて、実際には自動車の通行機能と歩行者の役割分担を意識しながら考えていかないといけないと思います。

さらに、具体的な施策展開をする上では単なる通行ということではなく、実際にどんなアクティビティが展開するのかということや道路だけではなくその沿道の空間がどんな機能を持ってどう繋がっているのか。横断的な視点を持って、一体性を意識した政策展開が必要だと思っています。

そう考えていくと、先ほどキーワードに出た「きめ細かな改修」も意識したような施策展開が、ゆくゆくは税制的な優遇、実現できるかどうかわかりませんがインセンティブを意識した仕組みを整えとか、さらにはデータ整備の必要性についてのコメントも先ほどありましたけれども、そういった政策全体の環境を整えて総合的な取り組みをドライブしていくことは非常に大事だと私は思っています。

制度・手法については、一旦は3つの軸で考えられる制度そのものを書き出したということにすぎないので、実際の政策展開までイメージして相互の関係を深めて表を整理する、あるいはそこに実際に実例を紹介しながら活用可能性がある制度をきちんと並べていくなど、その辺は引き続き新年度に関係部と知恵を持ち寄って整理していく必要があると認識しています。

林さんも様々なところでご活躍されていらっしゃると思いますので、ぜひ現場の立場からの視点を加えてほしいということで引き続きアドバイスいただければと思います。よろしくお願いします。

○林委員

ありがとうございます。その上で関係性が見える化することと、可能な範囲でウォーカブルの周辺計画の進捗もこの委員会メンバーにお伝えした方が良いと思いました。

○泉山委員

他の計画とウォーカブルビジョンの関係を整理するにあたりミッションが明確になると、やるべきことがわかってくるのではと思いました。

○山崎委員

今の話をより野心的に考えると、札幌市がつくるたくさんの計画をウォーカブルビジョンという観点により、関連するような政策が行政内で横串になる位置づけとなって

束ねられ、目的や目標などが見えるようになる。このビジョンを作ることによっていろんな人がハッピーになると思いました。その上でまずは計画の関係を理解することがすごく大事なことでと思います。

あと少し加えて次年度のリクエストについてですが、合同ウォーキングというか合同視察みたいなことできた方が良くはないかと思いました。

札幌が持つ空間性や札幌でのウォーカブルはどういう現状でどういうことを目指すべきなのかというのを、都市空間からインスピレーションもらうことがやはり大事だと思います。かつ、個人がウォーキングした経験はもちろん大事ですが、それを共有するような体験も大事なと思うので、委員会としては前回のようなシンポジウムのような機会よりもこのような機会がひょっとしたら大事なかもしれないなと思ったりしています。

○有村委員長

はい、ありがとうございます。いろいろアイデアをいただきまして、新しい企画があるかも知れないということかも知れませんが、事務局の方からコメントございますか。

○山内プロジェクト担当部長

いただいたご意見で、他の計画との関係については、今一度整理してこのビジョンの持つ役割というものを我々としてもしっかり整理したいと思っています。

合同視察については、持ち帰らせていただいて、いろいろ考えさせていただきたいと思います。もしこの企画が実現する際には、ぜひ皆さん札幌にまた来ていただければと思いますのでよろしくお願いします。

○有村委員長

はい。ありがとうございます。他にご質問ございませんでしょうか。それでは、特にご意見等ないということですので、このあたりで意見交換を終わらせていただきます。

事務局におきましては、この意見交換の中で出てきたものに関しましてご対応をぜひお願いしたいと考えています。

委員の皆様につきましては、このスムーズな議事進行へのご協力に感謝申し上げます。それでは、ここで進行を事務局にお戻しいたします。よろしくお願いいたします。

○児玉政策推進課長

有村委員長、本日の議事進行誠にありがとうございました。

事務局では来年度末（仮称）札幌市ウォーカブルビジョン策定に向けて本日、いただいた意見を踏まえまして検討を進め、次回第4回検討委員会で素案をご報告したいと考えています。

今年度の委員会は今回が最終回となります。委員の皆様におかれましては大変ご多忙

の中ご参加いただきました。

また皆様からいただく貴重なご意見、ご指摘のおかげでウォーカブルビジョン骨子案の作成までたどり着くことができたというように思っています。大変感謝申し上げます。

また、有村委員長におかれましては、委員会の滞りない進行、議論の集約にご尽力いただきまして、改めて感謝申し上げます。ありがとうございます。

ビジョンの完成・策定まであと1年ですが、委員の皆様におかれましては引き続きご協力ご支援、どうぞよろしくお願いいたします。

また、今年度を実施いたしました公募型実証実験では、平岸マルシェ本舗と宮の沢まちづくり協議会、マコエキ会の皆様にもご協力いただきました。ウォーカブルビジョンにとって大変貴重な取り組みや成果をいただきました。3団体の皆様には改めて感謝申し上げます。どうもありがとうございます。

加えまして、ウォーカブルを進めていく上で、行政だけではなく市民や地域の皆様との連携協力を欠かすことはできません。市民ワークショップに参加された方のほか、本委員会をご視聴されている市民の皆様におかれましても、引き続き、市のウォーカブルの取り組みにご理解、ご協力いただければ幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、次回委員会の開催ですけれども、6月頃を予定しています。委員の皆様へは日程調整のご連絡を後日させていただきます。

オンラインで使用されている皆様におかれましては、最後までご参加いただき誠にありがとうございました。

札幌市の取り組みについてご質問等ございましたら、札幌市公式ホームページ、ウォーカブルシティの推進の問い合わせフォームよりご連絡いただければと思います。本日の資料については後日ホームページに掲載させていただきます。

以上をもちまして本日の委員会を終了させていただきます。本日は皆様、本当にどうもありがとうございました。

以 上